

平成28年3月期の業績について(ご参考資料)

1. 損益の状況

- (1) 連結経常収益は、貸倒引当金戻入益及び株式等売却益等その他経常収益の増加や保険商品等の預り資産の販売による役務取引等収益の増加等により、前期比4億98百万円増加し148億1百万円となりました。
- (2) 連結経常費用は、勘定系システムの移行(平成28年5月6日稼働)に伴う営業経費の増加により、前期比3億24百万円増加し115億66百万円となりました。
- (3) この結果、連結経常利益は前期比1億74百万円増加して32億35百万円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は特別利益の増加等により前期比2億84百万円増加して25億57百万円となりました。

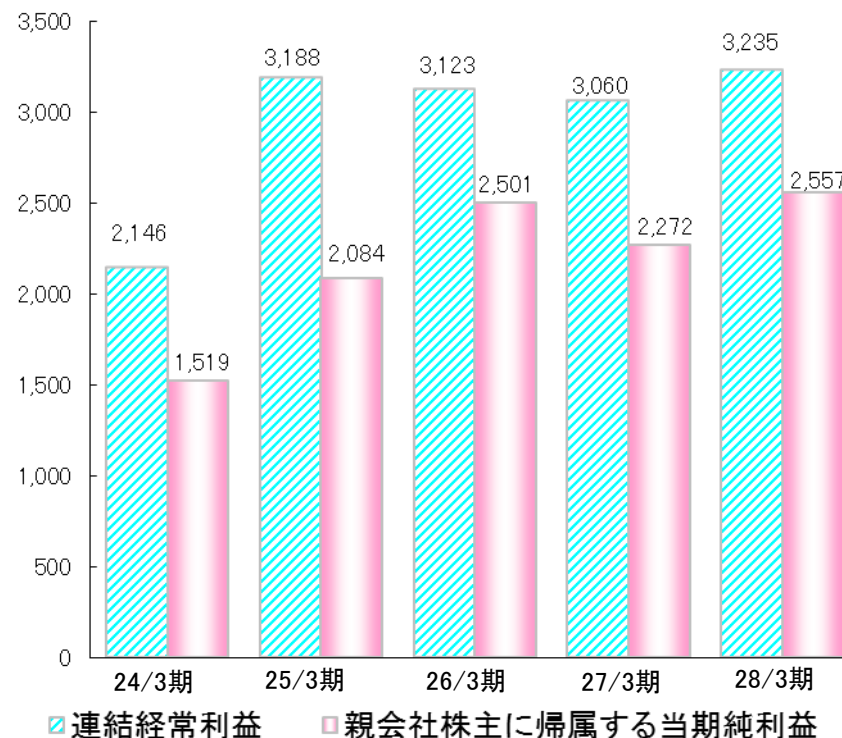
【連結】 (単位:百万円)

	平成28年3月期 実績	平成27年3月期 実績	平成27年3月期比	
			額	率
経常収益	14,801	14,302	498	3.5%
経常利益	3,235	3,060	174	5.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,557	2,272	284	12.5%

【単体】 (単位:百万円)

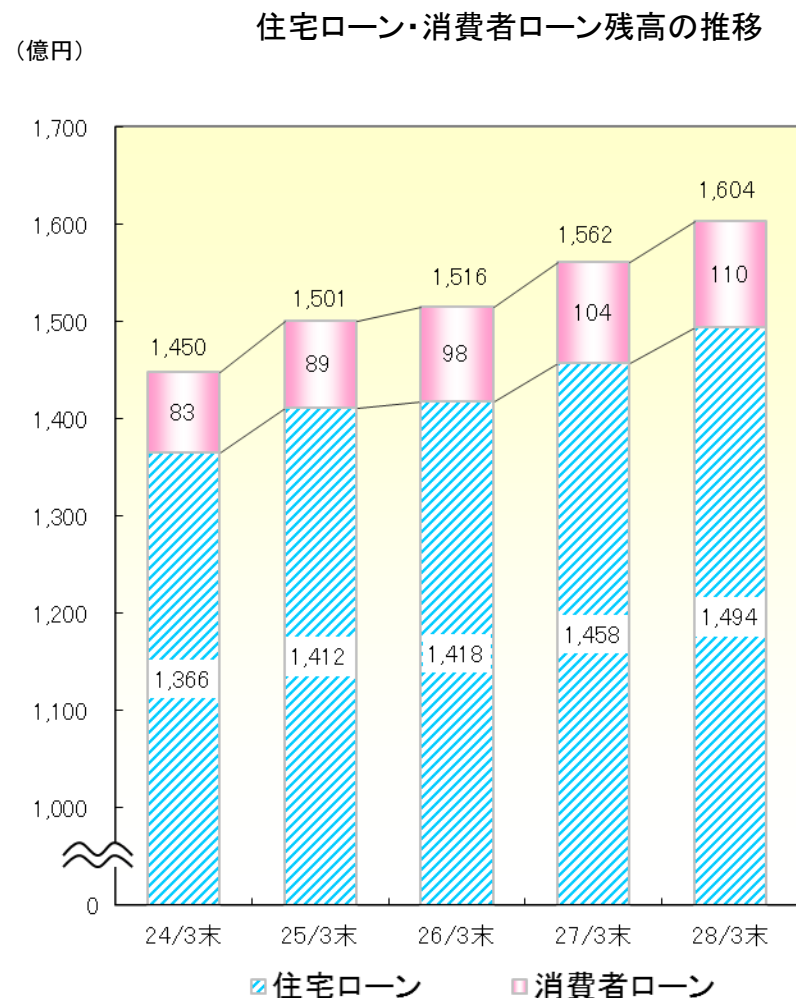
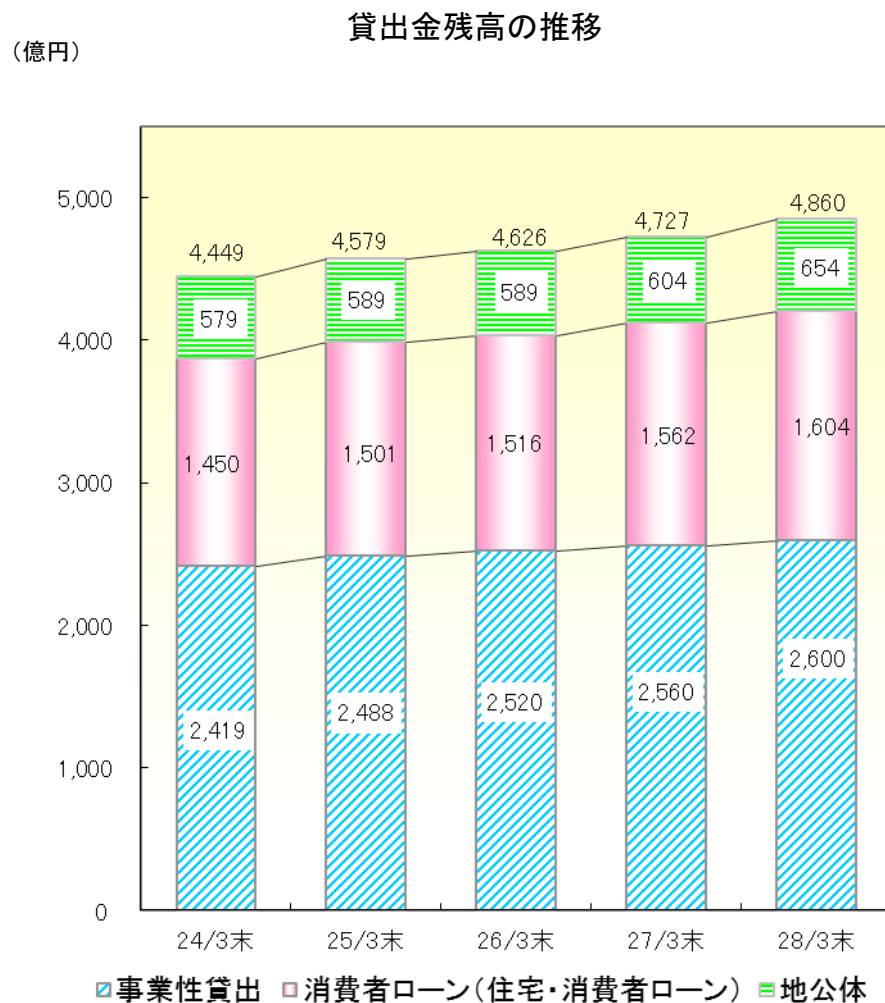
	平成28年3月期 実績	平成27年3月期 実績	平成27年3月期比	
			額	率
経常収益	13,607	13,195	411	3.1%
経常利益	3,101	2,943	158	5.4%
当期純利益	2,481	2,223	258	11.6%

(百万円) 連結経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益の推移



2. 貸出金の状況(単体)

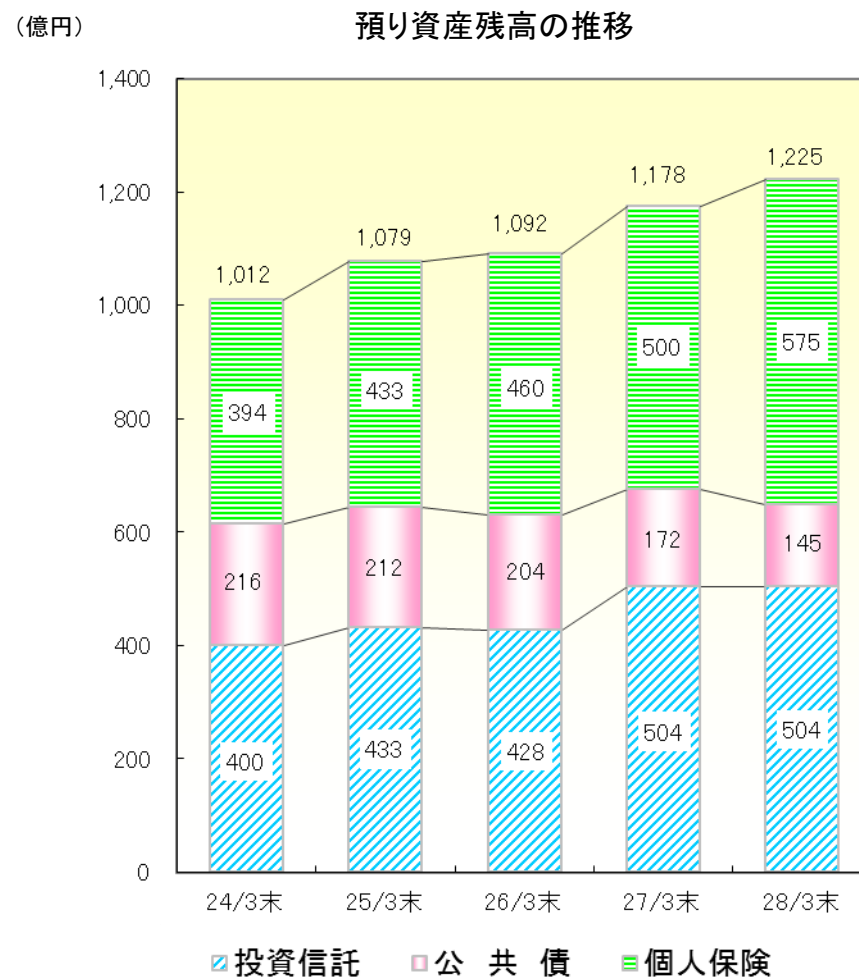
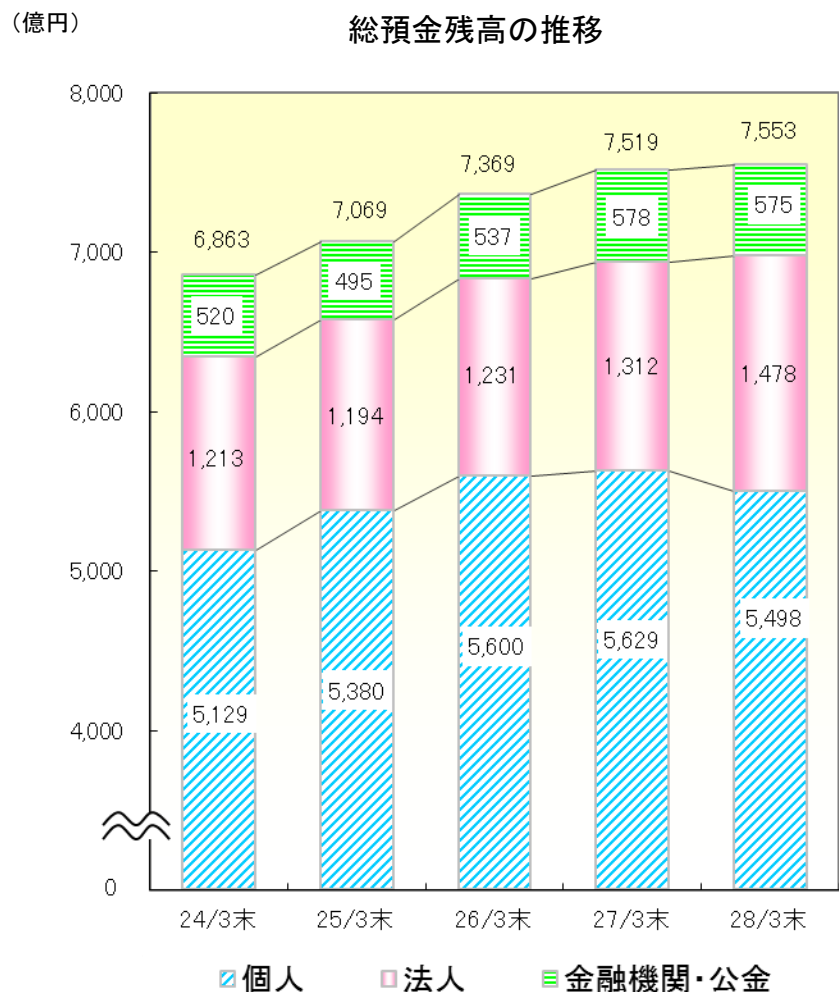
貸出金残高は、法人向け及び地公体向け貸出が増加したことなどから、前期末比133億円増加して4,860億円となりました。



3. 預金、預り資産の状況(単体)

総預金(譲渡性預金を含む)残高は、主に法人預金が増加したことから、前期末比33億円増加して7,553億円となりました。

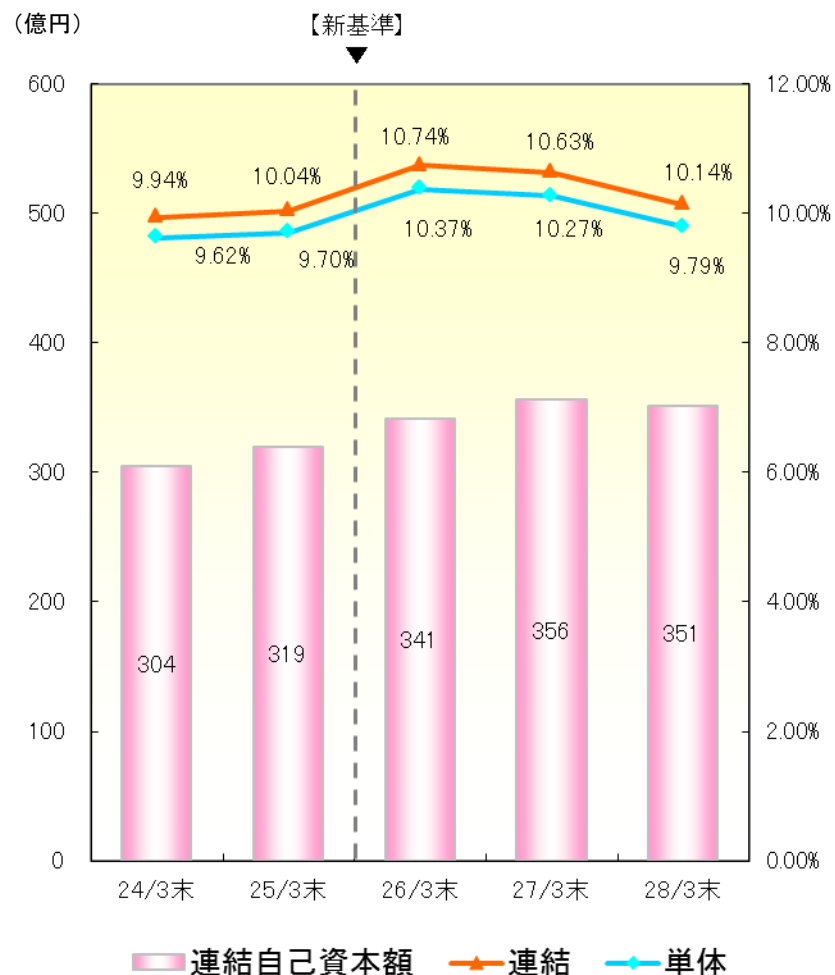
預り資産残高は、保険商品の販売が堅調に推移したことなどから、前期末比47億円増加して1,225億円となりました。



4. 自己資本の状況

自己資本比率は、連結で10.14%、単体で9.79%となりました。

自己資本比率の推移

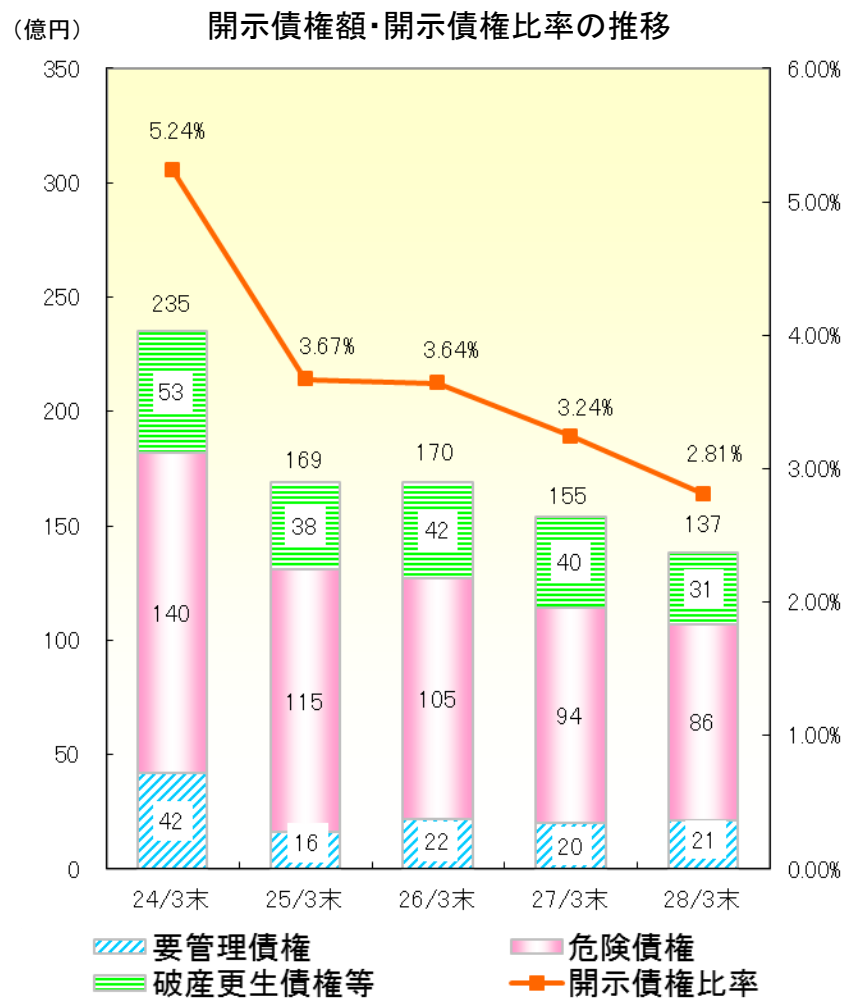


(単位:百万円)

	単体	連結
	平成28年3月末	平成28年3月末
(1) 自己資本比率 ((4) / (5))	9.79%	10.14%
(2) コア資本に係る 基礎項目の額	34,272	35,892
(3) コア資本に係る 調整項目の額	676	711
(4) 自己資本の額 ((2) - (3))	33,596	35,181
(5) リスク・アセット等の額 の合計額	342,903	346,892
(6) 総所要自己資本額 ((5) × 4 %)	13,716	13,875

5. 開示債権の状況(単体)

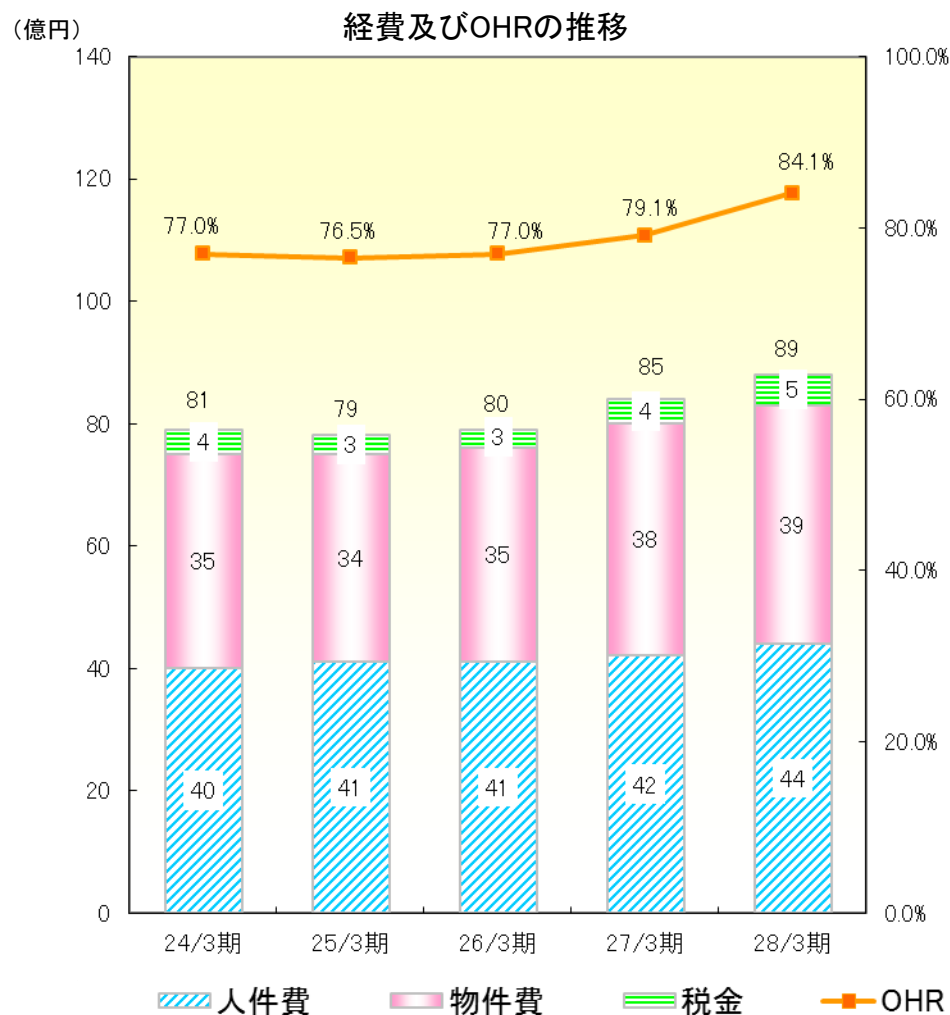
金融再生法による開示債権額(単体)は、前期末比16億円減少して137億円、開示債権比率(単体)は、0.43ポイント低下して2.81%となりました。



(注) 単位未満四捨五入

6. 経費の状況

経費は、勘定系システムの移行(平成28年5月6日稼働)に伴う営業経費の増加などにより、前期比3億増加し89億円となりました。



(注) 経費は臨時処理分を除く。